



福音を生きよう

詩編に収められた古来の祈りにもあるように、苦しみや怖れ、疑い、孤独、逆境といった暗闇に、夢を打ち砕かれるといった状況は、いつの時代、地上のどこにあって、人間が繰り返し体験してきたものです。



「主はわたしの光、  
わたしの救い  
わたしは誰を恐れよう」

(詩編27章1節)



主はわたしの光、わたしの救い  
わたしは誰を恐れよう



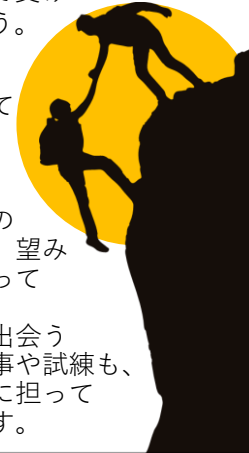
神様は、御父としてご自分の子らの幸せを望んでおられます。そうした神の愛に対する信頼の灯し火をもっと燃え立たせようではありませんか。

神様は私たちの思い煩いを担ってくださろうとしています。それは、私たちが自分だけに目を向けてしまわないで、人生で見出した光や希望を、自由な心で人と分かち合えるように、そうしてくださるのです。

主はわたしの光、わたしの救い  
わたしは誰を恐れよう

神様はいて、私を愛してくださっていると、信じましょう。誰かと出会いますか？神はその人を通して私に何か言おうとしておられるはずです。苦しみがやってくるときは、神が私を愛しておられると信じましょう。喜びが訪れるときには、それも神の愛として受け止めましょう。

神はいつも私と共にいて下さいます。私のことは何もかもご存知で、私の考えや喜び、望みもすべて知っておられます。生活の中で会おうどんな心配事や試練も、神は私と共に担って下さいます。



主はわたしの光、わたしの救い  
わたしは誰を恐れよう

この確信をもつために、私たちはどうすればいいでしょうか。

私たちの間に、イエスの存在を保つことです。イエスは、二人三人がご自分の名によって集うところに共にいると約束されました。だから、いのちの言葉を共に生きる人たちと集い、福音の教える相互愛を生きながら、互いに経験を分かち合ひましょう。そうすれば、イエスが共におられるときの実り、喜びや平和、光や勇気を味わうでしょう。



キアラ・ルービック・いのちの言葉2006年7月

wordteens.focolare.org